

# CASBEE® - 建築(新築)

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 ■使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v4.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	香陵公園周辺整備PFI事業	階数	地上4F
建設地	静岡県沼津市御幸町91-61の内、91	構造	S造
用途地域	近隣商業地域、第1種住居地域、準	平均居住人員	2,000 人
地域区分	7地域	年間使用時間	4,550 時間/年(想定値)
建物用途	集会所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年12月 予定	評価の実施日	2021年2月1日
敷地面積	14,569 m <sup>2</sup>	作成者	土生 達哉
建築面積	8,261 m <sup>2</sup>	確認日	2021年2月1日
延床面積	16,683 m <sup>2</sup>	確認者	外山 博文



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 1.5**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B+: ★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5

Q1 室内環境: 4

Q3 室外環境(敷地内): 3

LR1 エネルギー: 2

LR2 資源・マテリアル: 1

LR3 敷地外環境: 1

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 **Qのスコア = 3.8**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.6

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.7

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 4.1

### LR 環境負荷低減性

**LRのスコア = 3.1**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.8

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> 広場を分散して設け、様々な方向から市民が訪れることができ、スポーツ・交流・憩いと出会うことができる市民にとって多様な場の形成を行った。また、既存樹木を活かし、緑豊かな景観形成を図り、香陵公園全体が一体的な空間となるよう計画を行った。		その他
<b>Q1 室内環境</b> 外皮に断熱性能に富むALCを採用し、ピロティ部等は適切に断熱材を用い、外界から熱的侵入の抑制。内装材はすべてF☆☆☆☆を採用。	<b>Q2 サービス性能</b> 居室は居心地・快適性を重視した広さとし、建物の階高、空間の形状・自由さに考慮した。各アリーナは快適な競技環境・観覧空間とするため音響に配慮した材料選定及び空調計画を行った。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 屋外デッキを分散して設け、室内空間に対して開放的な空間を形成。隣地市民文化センターとの連携を図り、緑の眺めを整備し、公園全体としての回遊性を高め、一体的な緑化計画を行った。
<b>LR1 エネルギー</b> 積極的に自然エネルギーの活用を図り、太陽光を利用した発電パネルや集熱パネルを屋根に設けた。また、各アリーナは換気窓を設け、重力換気での自然換気促進を図った。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 疑似音装置や節水型の水栓の採用を行い施設全体で節水を図った。また、雨水を収集し、雑排水へ利用することで資源活用を図った。	<b>LR3 敷地外環境</b> 敷地内及び隣地から流入する雨水に対し、雨水調整槽を設けることで雨水流出負荷の軽減を図った。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される